

## シリーズ

私の森語り  
もりかた

森林・林業との関わりの中で、様々な課題に挑戦されている方の取組を紹介します。



# 「岐阜樹木育苗センター」設立から 特定母樹を用いたスギコンテナ苗 の生産」



住友林業 岐阜樹木育苗センター  
シニアマネージャー  
川添 峰夫  
かわぞえ みねお

## ■自己紹介

岐阜県大垣市出身で、二〇一六年三月天竜森林管理署長を退官後、同年八月から住友林業株式会社岐阜樹木育苗センターに再就職しスギコンテナ苗の生産管理に従事しています。

これまで国有林等で培ってきた森林技術を苗木生産に生かし生産性の向上、苗木の品質向上、苗木の販路拡大と普及に取り組んでいます。

## ■活動内容

人工林の大半が収穫期を迎え、皆伐再造林の増加に伴う全国的

な苗木不足が予想される中、当社は全国六カ所に環境制御型苗木生産施設を展開しています。

二〇一五年には岐阜県と苗木の安定供給に関する協定を締結し、二〇一七年三月、岐阜県下呂市に「岐阜樹木育苗センター」を設立しました。民間企業と自治体が連携して苗木供給体制をつくるのは全国初の取り組みです。



岐阜樹木育苗センターの外観

岐阜県には、大型製材工場や合板工場、木質バイオマス発電所があり、原木ニーズが高い地域でも

あり、当社が独自に開発した苗木生産技術を用いて、不足している苗木の生産・供給を行うことにより、県内の森林資源の積極的な循環活用が期待されています。

当センターの施設内には、手作業の種まきに比べて五倍〜十倍の生産性を高める半自動播種機や十四万個体の発芽を可能にする発芽室、育苗台がレールを自由に移動できるムービングベンチの導入により、女性一人でも一度に千五百本以上の苗木を移動できます。さらに二〇二二年度から培地充填機や穴あけ機を導入し、労働負担のさらなる軽減と生産性の向上（手作業と比較して三〜五倍の生産性）に取り組んでいます。

これらの環境制御設備と一体となった室内環境を数値化できる「クラウドシステム」の導入により品質の高い苗木生産が可能となっています。

種子に赤外光を当て、種子内部の違いを検査し、発芽が期待される充実種子と発芽しない種子を容易に見分ける充実種子選別装置を開発し、発芽率の向上に寄与しています。

## ■メッセージ

二〇一八年にスギ特定母樹の閉鎖型採種園を整備し、二〇二五年には、自社の特定母樹採種園から採取した種子を使用し、岐阜県内において特定母樹のコンテナ苗を初出荷しました。

この苗は中部森林管理局が取り組む「超緩効性肥料を用いたエリートツリー等コンテナ苗の活用試験地」へも提供しています。今後も引き続き少花粉スギなどの花粉症対策苗や成長の良いエリートツリー苗の生産を拡大していくこととしています。



スギ特定母樹の閉鎖型採種園

## ■連絡先

岐阜県下呂市乗政786番地17  
住友林業株式会社資源環境事業本部  
森林資源部 岐阜樹木育苗センター